別紙資料 2

実践事例報告

2023 年 2 月

NTTラーニングシステムズ

目次

事例選定の観点と選定方法 2
「話す（やりとり）」を主な言語活動とした事例 3
A1 3
A2 12
B1 17
B2 25
C 37
「話す（発表）」を主な言語活動とした事例 39
A2 39
B1 42
「読む」を主な言語活動とした事例 44
A1 44
A2 46
B1 51
B2 53
「書く」を主な言語活動とした事例 55
A1 55
A2 59
「その他（日本事情・日本理解）」を主な言語活動とした事例 61
A1 61
A2 66
B2 68

事例選定の観点と選定方法

本事業で実践した 131 コースの中から今後のオンライン授業の参考になると思われる好事例、今後の課題解決につながるヒントが見られる事例などを 28 選んだ。選定に当たっては以下の点を考慮した。

①コース目標設定とプログラムの適切性

・コースがマトリックスと合致しているか

②教育内容・方法の適切性

・コースの目標と学習者の日本語能力レベルから見てカリキュラムと教育内容は適切だったか

・コースの目標と学習者の日本語能力レベルから見て日本語能力の評価方法は適切だったか

・オンライン（含オンデマンド）での教授スキル及び教授方法は効果的だったか

・コースの目標と学習者の日本語能力レベルから見て使用教材は適切だったか

・オンライン教育環境（設備・機材等を含む）に問題はなかったか

・オンライン教育において教師及び学習者に対する研修やサポートは適切だったか

③目標の達成度成果について

・学習者による目標の達成度・成果の評価はどうか

・日本教師による目標の達成度・成果の評価はどうか

上記に加えて、学習者評価、オンライン授業での特徴的な取組、課題解決に向けたヒントといった観点も考慮して、各項目を数値化して実践事例を選定した。それをもとに、本事業の実証評価委員４名が共有する価値があると判断した 28 の実践事例を以下の通りまとめる。

実践事例報告

大阪 YWCA 専門学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	進学	話す（やりとり） 話す（発表）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	6 人
コース名・受講者属性：	入門②（A1/進学）

2. 授業概要

会話力を高める授業。
聴解力を高める授業。

言語活動と目標		
	話す（やりとり）	・授業内で使う言葉（聞いてください・見てください・言ってください）がわかる ・自己紹介ができる　＊出身についてやりとりすることができる ・好きなものについてやりとりすることができる ・身の周りのモノについて日本語で何というか尋ねることができる ・モノの位置について簡単はやりとりができる ・モノの数、値段について簡単なやりとりができる ・趣味について簡単なやりとりができる ・一日の生活について簡単なやりとりができる
	聞く	・簡単な日常会話を聞いて、何について話しているのかわかる

使用教材	**学校教材、自作教材**
使用教具	**プレゼンソフト、ドキュメントソフト（PDF）**

授業風景

3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：40～49 歳	指導歴：１年以上 3 年未満

オンライン指導経験：	1 年～2 年
（経験手法）	オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。クイズ。会話テスト。
聞く	授業中の態度。発言。クイズ。会話テスト。

日本語力の伸び	4 段階評価： 3 やや感じた 4 段階評価： 4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動： 聞く。
学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の語彙力や表現力が増した。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 双方向でのタイムラグを意識した。 対面より話す速度を遅くした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。

5. 教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 双方向授業時の学習者の表情や状況の把握。 説明の仕方や教材の使い方（対面授業との相違）。 授業の進め方・進度（対面授業との相違）。 授業前の準備の時間・作業量。
	対応 学生への指示により改善
オンライン教授	4 段階評価： 3 やや向上した 4 段階評価： 4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。 ICT 機器の効果的な活用について理解できたこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者は、事後アンケートで全員日本語力が「向上した」留学動機が「高まった」と回答している。

7 名中 6 名が「話す（やりとり）」が伸びたと回答し、残りの 1 名も「話す（発表）」が伸びたと回答している。

②教師

教師は学習者の日本語力の伸びを「やや感じた」と回答している。

③指導

オリジナル教材を用いて A1 レベルの学習者に「話す（やりとり）」を中心に指導した。

Can-do を設定して、学習者の国の事情なども共有して、お互いが話しやすい関係になることも配慮した。

ビデオオフの学習者には、理解を確認できるような質問をこまめに投げかけることで対応した。

考察

「話す（やりとり）」が伸びた事例である。指導目標を明確にして指導しただけでなく、学習者の文化や各国の事情を授業の話題に取り入れ共有しながらコースを進め、学習者同士の関係性が向上したことが学習者の発話動機につながったものと思われる。「話す（発表）」は到達目標に掲げられていないが、コースに自己紹介の発表や各国の事情の説明、ペアで会話の発表などが取り入れられており、学習者が伸びたと回答しているように「話す（発表）」も伸ばすことができている。オリジナル教材は指導したいことに合わせて例文などのプリントだけでなくイラスト、音声も自作している。

実践事例報告

学校法人麻生塾　麻生外語観光＆製菓専門学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	進学	話す（やりとり） 聞く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	7 人
コース名・受講者属性：	留学準備講座（A1/漢字圏/進学）

2. 授業概要

平仮名・カタカナを習得する授業。漢字の力を高める授業。
日本留学準備のための授業。
会話力を高める授業。
聴解力を高める授業。
日本留学又は日本への興味関心を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	ゆっくり話される短い質問に答えることができる。。
話す（発表）	教室や身の回りなどの身近なテーマについて意見を述べることができる。
聞く	ゆっくり話される短い会話であれば、必要な情報を聞き散ることができる。
読む	ひらがなや簡単な漢字で表記された文章をよむことができる。
日本事情･日本理解	日本の文化や社会について興味をもつことができる。

使用教材	オンライン教材「いろどり入門・初級、購入教材「できる日本語初級、つなぐ日本語初級」、自作教材
使用教具	プレゼンソフト、プロジェクター

授業風景

3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：50～59 歳	指導歴：5 年以上 10 年未満

オンライン指導経験：　2 年～3 年
（経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業

4.評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。出欠。発言。会話テスト。
話す（発表）	授業中の態度。出欠。発言。会話テスト。
聞く	授業中の態度。出欠。発言。会話テスト。
読む	授業中の態度。出欠。発言。
日本事情･日本理解	授業中の態度。出欠。発言。

日本語力の伸び	４段階評価：　2 あまり感じなかった 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、読む、日本事情・日本理解
学習効果	学習者が学習目標を見つけた。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者オンライン関係の日本語に慣れた。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 双方向でのタイムラグを意識した。 対面より話す速度を遅くした。 学習者から質問が出るように心掛けた。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 グループ別活動（ブレイクアウト機能などを使用）を積極的に行った。

5.教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（自宅）の不調・不具合。 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 説明の仕方や教材の使い方（対面授業との相違）。 学習意欲の低下への対応。授業の雰囲気づくり。
	対応　　文字を大きく表示させる
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。 学習者に学習での気づきを促す方策を得たこと。 学習意欲の喚起や保持のために役立つ工夫やアイディアが得られたこと。 印刷教材と電子教材の使い分け・使いこなしが理解できたこと。 教師の言語行動，非言語行動の重要性や適切さについて，新たに認識できたこと。 学習者への新たな働きかけを学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、学習者の成績は伸びた者が 1 名、伸びなかった者が 4 名だった。

学習者は事後アンケートで、「話す（やりとり）」と「聞く」が向上したと回答している。

②教師

教師は、学習者から質問が出るように心掛けたり、グループ活動を取り入れるなど、会話力が向上するよう工夫をした。

③指導

アンケートによると、途中からカメラをオフで参加する学生が出るなど、学習意欲の低下がみられたが、現地の教師のサポートを得たり授業の雰囲気づくりを工夫したりして対応した。

考察

「話す（やりとり）」と「聞く」について、学習者も教師も伸びたと感じている。「質問のリストを提供し、その答えを考える宿題を出し、次の授業で教師が質問し学習者が答える」、あるいは、「日本人の友達が自国を訪れたらどうするかといった課題を提示して次の授業でその回答を発話させる」といった形式の会話のテストをコースに取り入れた。単なる記憶力ではなく、学習者自身が考えて発話した日本語を教師が評価することで学習者の主体性を刺激していたと思われる。学習者の好みを把握し、アニメの話題などでクラス内の雰囲気づくりを工夫したり、現地の教師のサポートを得てオンラインの不調に対応してもらうなど、学習環境を様々な点から整えたことで学習者が日本語学習に集中できていたと言える。学習者のいる海外のスタッフの協力が得られた点でも参考になる事例である。

実践事例報告

学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	一般	話す（やりとり） 聞く	ハイブリッド授業

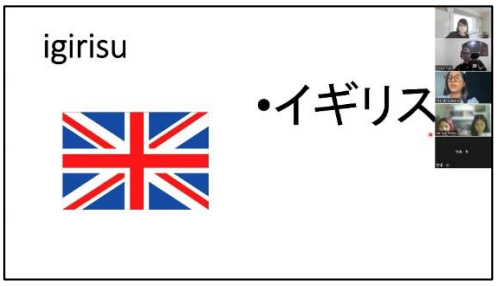
1. コース情報	授業形態：　グループ・16 時間(L-2 パック)
	受講者数：　6 人
	コース名・受講者属性：　入門日本語（A1/非漢字/一般）

2. 授業概要	平仮名・カタカナを習得する授業。 会話力を高める授業。 聴解力を高める授業。 日本留学又は日本への興味関心を高める授業。 日本に対する理解を深める授業。 日本語の学習意欲を高める授業。	
言語活動と目標	話す（やりとり）	人に会ったとき、あいさつをすることができる。 人にお礼を言ったり、謝ったりすることができる。 相手の言っていることがよくわからないとき、聞き返すことができる。 日本語やほかのことばができるかどうか質問したり、質問に答えたりすることができる。 日本語の言い方がわからないとき、どう言えばいいか質問して、その答えを理解することができる。 住んでいるところや年齢などを質問したり、質問に答えたりすることができる。 写真を見ながら、その人がだれかなどの簡単な質問をしたり、質問に答えたりすることができる。
	話す（発表）	名前や出身などを言って、簡単な自己紹介をすることができる。
	聞く	教師の指示を理解することができる 家族の紹介を聞いて、家族のメンバーを理解することができる。
	読む	ひらがな・カタカナを読むことができる 「おはよう」や「ありがとう」などのメッセージスタンプを見て、意味を理解することができる。 SNS の短い書き込みを読んで、写真を手がかりに、話題を理解することができる。
	書く	ひらがな・カタカナを書くことができる 名札などに、自分の国と名前を書くことができる。
	日本事情･日本理解	日本料理の写真を見て、料理名を言うことができる。 有名な観光地の写真を見て、場所の名前を言うことができる。 地図を見て、地名を言うことができる。

	地名から地図の場所を示すことができる。

使用教材	オンライン教材「いろどり」
使用教具	プレゼンソフト，プロジェクター，WEB アプリ(kahoot)

授業風景



3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：50～59 歳	指導歴：5 年以上 10 年未満
オンライン指導経験：　2 年～3 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。出欠。発言。会話テスト。
話す（発表）	授業中の態度。出欠。発言。
聞く	授業中の態度。出欠。発言。行動。会話テスト。
読む	授業中の態度。出欠。発言。行動。
書く	授業中の態度。出欠。行動。提出物。
日本事情･日本理解	授業中の態度。発言。行動。クイズ。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった 伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、聞く、読む、日本事情・日本理解
学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の会話力が伸びた。学習者の聴解力が伸びた。 学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。
授業への工夫	学習者の発話機会を増やすようにした。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 グループ別活動（ブレイクアウト機能などを使用）を積極的に行った。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 双方向授業時の学習者の表情や状況の把握。 ハイブリッド授業のときの授業の運営。授業前の準備の時間・作業量。 授業後の整理の時間・作業量。 授業終了後の身体的疲労。 授業の雰囲気づくり。その他。
	対応　　学生への指示により改善
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。 教師の言語行動，非言語行動の重要性や適切さについて，新たに認識できたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、6 割の学習者の成績が向上していた。

事後アンケートで学習者は日本語力が「向上した」か「やや向上した」と回答している。

事後アンケートで約 7 割の学習者が「話す（やりとり）」が伸びたと回答し、残りも「聞く」が伸びたと回答している。

②教師

オンラインの学習者に書く指導のフィードバックが難しいという気づきがあった。

③指導

会話力向上のために、会話練習時間を多くとって、ブレイクアウト機能などを用いていた。

Kahoot、SNS のスタンプなどを利用した活動を盛り込んでいた。

考察

「話す（やりとり）」と「聞く」が向上した事例である。学習者も教師も「話す（やりとり）」「聞く」が伸びたと感じている。ブレイクアウトルームを使うなどして、やり取りする機会を増やし、会話テストも実施することで学習者も「話す」について何ができて何ができていないのか実感することができたと考えられる。動画を視聴することによって、聞くことに集中させる時間を作るなど、多くの工夫が学習者の日本語力に良い影響を与えていると考えられる。

実践事例報告

学校法人 穴吹学園　専門学校 穴吹ビジネスカレッジ　日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
A2	進学	話す（やりとり）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	9～14 人
コース名・受講者属性：	受験準備講座（A2/非漢字圏/進学）

2. 授業概要

生活日本語力を高める授業。
会話力を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標	
話す（やりとり）	初対面の人と挨拶、自己紹介ができるようになる 家族について詳しく描写できる 自分の国について詳しく描写できる 失礼のない表現で友人、同僚を誘う 困っていることについて相談することができる 感謝の気持ちを伝えることができる 意見を言うことができる

使用教材	**購入教材「つなぐにほんご初級１・初級２」、自作教材**
使用教具	**プレゼンソフト、プロジェクター**

授業風景

3. 担当講師

職位：教務主任相当	年代：50～59 歳	指導歴：20 年以上

オンライン指導経験：　1 年～2 年
（経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	会話テスト。

日本語力の伸び

４段階評価：　3 やや感じた

4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった

	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）。話す（発表）。日本事情・日本理解。
学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の会話力が伸びた。 学習者の聴解力が伸びた。 学習者の日本への興味関心が高まった。
授業への工夫	必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ICT 機器のトラブル。 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 説明の仕方や教材の使い方（対面授業との相違）。 授業前の準備の時間・作業量。 授業の雰囲気づくり。
	対応　　連絡方法の改善
オンライン教授	4 段階評価：　4 非常に向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。 学習者への新たな働きかけを学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

日本人教師から指導を受けモチベーションが上がった学習者がいた。

Wi－Fi，スマートフォンで学習していたが，教材の視聴に問題がある回答はなかった。

②教師

オンラインでは学生と信頼関係を築き、距離を縮めながら指導していくことが難しいと回答している。

③指導

A2 レベルの学習者で（一部特定技能取得を目指す学習者含む）に対して，来日後，遭遇すると思われる場面を設定して指導した。

ペアで会話を作成して発表するという手法を取り入れている。

考察

学習者はこれまで文型シラバスで学習してきたが、今回は場面シラバスでカリキュラムを組み、教師はイラストなどで場面を示し、どのような日本語を使用するか考えさせながら授業を進めた。その結果、学習者は既習語彙や既習文型をどう使うかということを考えながら話す練習を繰り返し、その場面で使われる文型の理解が深まったと教師は感じている。また、コースの途中と終わりに会話のテストを実施し、授業で取り上げた場面と少し違う場面を提示してペアで話させ、評価してい

る。これらはモチベーションの向上と復習に効果があったと教師は感じている。「話す（やりとり）」を指導するために留意すべき点を示している事例である。

実践事例報告

学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
A2	一般	話す（やりとり） 話す（発表）	ハイブリッド授業

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	9～14 人
コース名・受講者属性：	初級日本語（A1/漢字/一般）

2. 授業概要

漢字の力を高める授業。
生活日本語力を高める授業。
会話力を高める授業。
聴解力を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	日常場面でわからないことを尋ねることができる
話す（発表）	自分のことや興味関心について平易な表現で説明することができる
聞く	日常場面で聞いた説明を理解することができる
読む	よく使う漢字交じりの掲示やメモを読んで理解することができる
書く	自分のことについてかなで書くことができる
日本事情･日本理解	よく知られている日本事情について理解することができる

使用教材	オンライン教材「いろどり初級」、自作教材
使用教具	プレゼンソフト、プロジェクター、コミュニケーションツール（Padlet）

授業風景

3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：50～59 歳	指導歴：20 年以上

オンライン指導経験： 2 年～3 年
（経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。会話テスト。
話す（発表）	授業中の態度。発言。会話テスト。

聞く	授業中の態度。発言。会話テスト。
読む	授業中の態度。発言。クイズ。
書く	授業中の態度。発言。クイズ。
日本事情･日本理解	授業中の態度。発言。クイズ。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、日本事情・日本理解
学習効果	漢字の力を高められた。 学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者オンライン関係の日本語に慣れた。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 対面より話す速度を遅くした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 グループ別活動（ブレイクアウト機能などを使用）を積極的に行った。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。

5. 教員考察	授業内トラブルや今後の課題 グループレッスンでの発声練習や会話練習と指導。 ハイブリッド授業のときの授業の運営。 授業前の準備の時間・作業量。授業終了後の身体的疲労。 オンデマンド授業の教材の作成・編集等。
	対応　　ノウハウを蓄積し効率化
オンライン教授	4 段階評価：　2 変わらない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	特にない。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、75%の学習者の成績が伸びている。

事後アンケートで、半分の学習者は日本語力が「向上した」、残りの半分が「やや向上した」と回答している。

②教師

学習者を観察し、発話が滑らかになってきたかなどその変化を把握していた。

③指導

ハイブリッドで会話力、発表力を高める授業を実施した。

ブレイクアウトルームで、見てほしい資料を学習者に見てもらえないことがあった。

ハイブリッド授業の場合、対面の学生とオンラインの学生がおり、対面とブレイクアウトルームの双方を効率よく見て回ることが難しい。

考察

オンラインでの会話指導の課題を示す事例である。教師は「話す（やりとり）」「話す（発表）」の向上を実感しているが、ブレイクアウトルームでの発話活動の留意点として、対面と違ってペアワークやグループワークが進行している間に指示を出すのが難しいことを示した。そのため，ブレイクアウトルームに進む前に、資料を見ながら練習ができるように丁寧に指示をする。そして，必要な資料を学習者が見ながら発話活動をする。

実践事例報告

学校法人深堀学園　外語ビジネス専門学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
B1	就職	話す（やりとり） 話す（発表）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	2 人
コース名・受講者属性：	ビジネス日本語コース（B1/就職）

2. 授業概要

生活日本語力を高める授業。
ビジネスや就職のための日本語の授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	日本の会社で働くうえで最低限必要な会話ができる
話す（発表）	自分の意見を大勢の前で敬語を使い話すことができる
聞く	日本の会社で日本人社員と最低限のコミュニケーションを取ることができる程度に聞ける
読む	書類や仕事の指示のメールを読むことができる
日本事情･日本理解	日本語以外のマナーや習慣などを理解し、必要に応じて周りの人に合わせられる。

使用教材	**購入教材にほんごで働く！　ビジネス日本語 30 時間**
使用教具	**特になし**

授業風景

3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：50～59 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満
オンライン指導経験：　1 年～2 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。
話す（発表）	授業中の態度。発言。
聞く	授業中の態度。発言。
読む	授業中の態度。発言。

日本事情･日本理解	授業中の態度。発言。

日本語力の伸び	４段階評価：　4 とても感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、聞く
学習効果	専門日本語への橋渡しができた。 学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者が学習目標を見つけた。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 双方向でのタイムラグを意識した。対面より話す速度を遅くした。 学習者の発話機会を増やすようにした。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（自宅）の不調・不具合。
	対応　　講師環境の改善
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。 機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。

まとめと考察：

①学習者

B１レベルの学習者に、ビジネス会話を指導した。

②教師

ネットの状況が悪く、学習者がカメラをオフで授業をすることがあったが、教師が学習者の発音、イントネーションなどを注意深く聞くことになり、目的によってはカメラオフでも問題はないのではないかという気づきを得ている。

教師は、Zoom の操作で学習者を待たせることがあったことを課題としている。

③指導

教師は、学習者が勉強したいことを勉強できたと面談で確認をして、良かったと述べている。

考察

オンラインで「話す（やりとり）」の指導をする際の新しい視点を提供する事例である。カメラがオンにできない学習者の発話を評価した際に、教師はカメラで表情が読めないことから学習者の発話に集中することができて、イントネーションや発音についてかえっていいフィードバックができたという経験をした。この経験から、教師は発音やアクセントなどに着目して指導する場合にはカメラをオフにすると効果的なのではないか、また、教師のカメラをオフにして発話のみで理解できるよう集中して聞くという練習も聞く力を養ううえで効果的ではないかと考えるようになった。オンラインに不慣れな教師は対面をいかにオンラインに置き換えるかと考えがちで、学習者のカメラをオンにさせることもその一つである。しかし、発音や韻律的特徴に集中して聞き取ることを目的とした場合には、音声に集中できるようにカメラをオフにするといい

のではないかという考え方は今後検討すべき重要な視点である。

実践事例報告

学校法人長沼スクール　東京日本語学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
B1	一般	話す（やりとり） 話す（発表）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	8 人
コース名・受講者属性：	中級会話-秋(B1/漢字・非漢字圏混在/一般)

2. 授業概要

会話力を高める授業。
日本留学又は日本への興味関心を高める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	・相手の発表を聞いてすぐに質問ができる ・意見交換ができる
話す（発表）	・自分が知っているものやことについて説明できる ・調べたことについて説明できる ・自分の国とほかの国とを比べることができる
聞く	・相手の話が理解できる
読む	・速読し内容をすぐに理解できる ・内容を簡潔に説明できる
書く	・授業で学んだ文法語彙を正しく使いまとまった文が書ける。
日本事情･日本理解	・日本について書かれている教材を選ぶようにした ・教材は学習者の国の事情と比べ安い内容のものにした

使用教材	**購入教材「中級へいこう」、自作教材**
使用教具	WEB アプリ（Jamboard, Google Form, Google Slide）

授業風景

3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：50～59 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満
オンライン指導経験：	3 年～4 年	

（経験手法）	オンライン授業（双方向）

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。出欠。発言。提出物。
話す（発表）	授業中の態度。出欠。発言。提出物。
聞く	授業中の態度。出欠。発言。
読む	授業中の態度。出欠。
書く	授業中の態度。提出物。
その他	授業中の態度。出欠。発言。提出物。

日本語力の伸び	４段階評価：　4 とても感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）
学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が学習目標を見つけた。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の会話力が伸びた。 学習者の聴解力が伸びた。 学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。 学習者がアプリケーションの使い方に慣れた。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 学習者の発話機会を増やすようにした。学習者から質問が出るように心掛けた。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。 事前課題を出し，授業で活用した。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。 オンライン授業で使うツールの機能などを学習者に十分理解させるようにした。 グループ別活動（ブレイクアウト機能などを使用）を積極的に行った。

5. 教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 授業の雰囲気づくり。
	対応　　再起動、再入室により回復
オンライン教授	4 段階評価：　4 非常に向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	事前課題とその効果的な活用方法について理解を深めることができたこと。 自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。

学習者に学習での気づきを促す方策を得たこと。
学習意欲の喚起や保持のために役立つ工夫やアイディアが得られたこと。

まとめと考察：

①学習者

アンケートに回答した学習者は、「話す（やりとり）」と「話す（発表）」が伸びたと回答している。

②教師

学習者の日本語力がとても伸びたと感じている。

③指導

教師は Jamboard や Zoom のブレイクアウトルームなどを活用した。

途中入室の学習者に今やっていることを手短に伝え、学習に参加しやすくなるように工夫した。

考察

事前課題，授業，振り返り，事後課題を通じて，コースの狙い通りに話す力を伸ばすことができた事例である。コースで取り上げたトピックを発表につなげ、各国の違いを共有したり、日本の観光地を調べて発表したりし、多くの学び合いが生まれている。

実践事例報告

学校法人大原学園　大原簿記情報ビジネス専門学校横浜校

レベル	目的	言語活動	授業手法
B1	一般	話す（やりとり） 聞く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	3 人
コース名・受講者属性：	生活日本語講座（B1/漢字圏/一般）

2. 授業概要

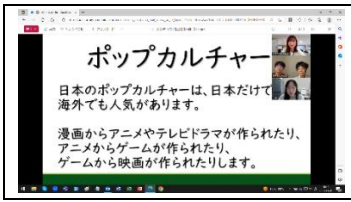
日本留学準備のための授業。
生活日本語力を高める授業。
日本留学又は日本への興味関心を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	・自国との文化の違いについて簡単に話すことができる ・日常的なやりとりができる
話す（発表）	・自己紹介ができる ・自分が好きな物について簡単に発表形式で紹介できる ・「五・七・五」の形式で、俳句を詠み、発表できる ・面接の場面で自分のことを簡単に話すことができる
聞く	・授業でテーマになっている話題について、教師の問いかけが理解できる ・授業で視聴する文化紹介映像の内容が理解できる
読む	・生活で使う会話例を読み、理解できる
日本事情･日本理解	・日本についての基礎知識が理解できる ・学校の周辺について理解できる ・日本での買い物の流れが理解できる ・交通ルールが理解できる ・病院へ行くときの流れが理解できる ・日本の就職について、基本的な知識が理解できる ・日本の食文化が理解できる

使用教材	**自作教材、動画サイト、レアリア**
使用教具	**プレゼンソフト**

授業風景



3. 担当講師

職位：教務主任相当	年代：30～39 歳	指導歴：5 年以上 10 年未満
オンライン指導経験：　2 年～3 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。クイズ。
話す（発表）	授業中の態度。発言。
聞く	授業中の態度。発言。
読む	授業中の態度。発言。クイズ。
日本事情･日本理解	授業中の態度。発言。クイズ。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった 伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、日本事情・日本理解
学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の会話力が伸びた。 学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 双方向でのタイムラグを意識した。 対面より話す速度を遅くした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者に授業内容を選ばせた。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。

5. 教員考察

授業内トラブルや今後の課題

ICT 機器のトラブル。
ネット回線（学校）の不調・不具合。
双方向授業時の学習者の表情や状況の把握。
授業の進め方・進度（対面授業との相違）。
授業前の準備の時間・作業量。
授業の雰囲気づくり。

	対応　　再起動、再入室により回復
オンライン教授	4 段階評価：　2 変わらない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	学習意欲の喚起や保持のために役立つ工夫やアイディアが得られたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、学習者の成績は伸びた者とそうでなかったものが半々だった。

学習者は自分の日本語力が「向上した」あるいは「やや向上した」と回答している。

学習者は「話す（やりとり）」と聞くが全員伸びたと回答している。

②教師

「話す（やりとり）」と「聞く」が伸びたと感じている。

③指導

独自のクイズも用いながら指導した。

教師は一つのトピックを深く指導することで学習者の興味を喚起できるかもしれない、もっと生活に密着したトピックがよかったかもしれないといった振り返りをすることができた。

考察

学習者、教師双方が目標としていた「話す（やり取り）」が伸びたと感じている事例である。モデル授業の「日本での生活導入授業」を参考にトピックを選定して話す指導をした。学習者の日本語力と日本に関する知識が予想以上に高いことがわかり、トピックを広げたり、深めたりして指導することにした。たとえば、日本の就職を目指している学習者がいることから、日本の会社のルールなどを取り上げて指導したところ、学習者が積極的に授業に参加してくれた。学習者の知りたいと思うトピックを取り上げ、深めることでオンラインであっても学習意欲を維持し、積極的な授業参加が期待できるのではないかと教師は考えている。

実践事例報告

学校法人上野法律学園　上野法科ビジネス専門学校日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
B2	進学	話す（やりとり） 聞く	ハイブリッド授業

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	2 人
コース名・受講者属性：	JLPT 文法 N2 コース（B2/漢字圏／進学）

2. 授業概要

日本語試験対策（EJU・JLPT 等）。	
言語活動と目標	
話す（やりとり）	個々の文法に合った簡単な短い文を作ることができる。 N2 レベルの会話表現で使える文法を意識的に使用できる。
話す（発表）	個々の文法に合った簡単な短い文を作ることができる。 N2 レベルの会話表現で使える文法を意識的に使用できる。
聞く	N2 レベルの文法を見たり聞いたりして理解をすることができる。
読む	N2 レベルの文法を見たり聞いたりして理解をすることができる。
書く	個々の文法に合った簡単な短い文を作ることができる。

使用教材	自作教材
使用教具	ドキュメントソフト（PDF）、プレゼンソフト、ドキュメントソフト（Word）、ホワイトボード

授業風景

3. 担当講師

職位：教務主任相当	年代：30～39 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満
オンライン指導経験：　～1 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。出欠。発言。
話す（発表）	授業中の態度。出欠。発言。
聞く	授業中の態度。出欠。発言。行動。
読む	授業中の態度。出欠。発言。提出物。

書く	提出物。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、読む
学習効果	漢字の力を高められた。 専門日本語への橋渡しができた。 学習者が学習目標を見つけた。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の会話力が伸びた。 学習者の聴解力が伸びた。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 双方向でのタイムラグを意識した。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。 事前課題を出し，授業で活用した。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。 オンデマンド学習の際に，教師の顔が出ている動画を使うことで，臨場感を出した。 オンデマンド学習の際に，動画とクイズを交互に組み合わせることで，内容理解の向上を図った。

5. 教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。授業の雰囲気づくり。 オンデマンド授業の教材の作成・編集等。
	対応　　再起動、再入室により回復
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。 ICT 機器の効果的な活用について理解できたこと。 印刷教材と電子教材の使い分け・使いこなしが理解できたこと。 教師の言語行動，非言語行動の重要性や適切さについて，新たに認識できたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、成績が伸びた学習者とそうでない学習者が半々であった。

事後アンケートで学習者は日本語力が「向上した」、あるいは「やや向上した」と回答している。

②教師

授業中に観察したことを踏まえ、面談時に学習方法などを助言していた。

授業を通して、学習者が日本語力に自信が持てるようになったなどの感触を得ていた。

③指導

B2 レベルの学習者に N2 レベルの文法を指導し、読んだり聞いたりして理解できるようになることを目指した。

コースの前半でオンデマンドで文型の意味導入を行い、コースの後半で双方向で理解度を確認したり練習したりした。オンデマンドの授業では聞いて理解するということを中心に学習を進め、オンライン（双方向）の授業で話すことに力点を置いた。オンデマンドの課題がすべて終了できていない学習者には、後半の双方向での解説・練習の授業までにオンデマンドでの課題を終わらせるように指示した。

考察

オンデマンド教材を使って試験対策を指導する場合の工夫を示す事例である。コースの前半でオンデマンドの教材による自学自習、中間面談で学習の進捗状況を確認し，オンライン（双方向）の授業で指導と振り返りをする。自学自習での遅れを取り戻す時間がある工夫もされている。 オンデマンドの教材として、一つの文型を 10 分程度で解説する動画を作成したが、作成には PowerPoint を活用しフォーマットを統一することで複数の教師が作成しても統一感を持った教材にすることができた。このような動画を自律的に学習してもらうために、動画視聴後に提出すべき課題を配置し、学習が継続されるようにも工夫している。

実践事例報告

学校法人長沼スクール　東京日本語学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
B2	一般	話す（やりとり） 聞く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報	授業形態：　グループ・16 時間(L-2 パック)
	受講者数：　3 人
	コース名・受講者属性：　中上級会話-夏(B2/漢字・非漢字圏混在/一般)

2. 授業概要	会話力を高める授業。 日本留学又は日本への興味関心を高める授業。 日本に対する理解を深める授業。	
言語活動と目標	話す（やりとり）	・自国の料理や思い出の料理について話したり、コメントを述べたりすることができる。 ・友達の状況を考えながら、約束をすることができる。 ・知らない人に対し、丁寧に道を尋ねたり、地図アプリの見方を教えてもらうことができる。 ・自国の習慣と日本の習慣と比較し、共通点や相違点を述べることができる。 ・興味関心のあるニュースや記事について意見交換ができる。
	話す（発表）	・自国の料理や思い出の料理について自身のエピソードを踏まえ、説明ができる。 ・自国の習慣について、客観的に説明することができる。 ・興味、関心のある記事やニュースを選び、その内容と意見が説明できる。 ・興味、関心のある日本の観光地について、その地の名産や歴史を踏まえ説明できる。
	聞く	・教師やクラスメートの意見や発表内容を理解し、それに対してコメントや意見が述べられる。 ・生のニュースを聞いて内容を理解し、その内容が説明できる。
	読む	・600 字から 800 字程度の文章を読み、その内容や筆者の主張を理解し、説明できる。 ・デジタル新聞やインターネットニュースの記事を読み、その内容や筆者の意見を理解し、説明できる。

使用教材	購入教材「カルテットⅠ」、自作教材
使用教具	プレゼンソフト、WEB アプリ（ドキュメントソフト（Google ドキュメント）、表計算ソフト（スプレッドシート）、Google classroom）

授業風景

3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：50～59 歳	指導歴：20 年以上
オンライン指導経験：　3 年～4 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、ハイフレックス授業		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。出欠。発言。
話す（発表）	授業中の態度。出欠。発言。
聞く	授業中の態度。出欠。発言。
読む	特に評価基準は設けない。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった 伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）
学習効果	学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の会話力が伸びた。 学習者の読解力が伸びた。 学習者の日本に対する理解が深まった。 学習者の日本への興味関心が高まった。
授業への工夫	双方向でのタイムラグを意識した。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。 事前課題を出し，授業で活用した。 オンライン授業で使うツールの機能などを学習者に十分理解させるようにした。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。

5. 教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 授業前の準備の時間・作業量。 対応　　ノウハウを蓄積し効率化
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	事前課題とその効果的な活用方法について理解を深めることができたこと。 自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。 学習者への新たな働きかけを学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者は事後テストの結果、2名とも成績が向上している。

学習者は事後アンケートで2名とも「話す（やりとり）」「聞く」「話す（発表）」が向上したと回答している。

学習者は事後アンケートで2名とも日本留学の動機が「高まった」と回答している。

②教師

事後面談で学習者の日本語力がやや向上した、会話力が伸びたと教師は感じている。

教師は様々なGoogleのアプリを活用して指導する場合、準備時間が対面よりかかることがわかり、それを踏まえて今後効果のある指導法を蓄積していくことの重要性に気づいた。

③指導

事前面談で会話の力を伸ばしたいという学習者の希望を確認したうえで指導を開始している。

日本と学習者の国とを対比しやすいテーマを取り上げて、共通点や違いが説明しやすい状況を作り出していた。

考察

B2 レベルの学習者の「話す（やりとり）」「聞く」を向上させた事例である。自国と対比的にとらえられるテーマを設定することで、学習者に自国と日本の違いや共通点に気づかせ、学習者に話そう、違いを聞き取ろうという気持ちをうまく高めている。これから日本に留学しようとする学習者には効果的なテーマ設定である。また、オンラインで生じるタイムラグによって話し始めのタイミングに戸惑う学習者もいたが、それも改善され、聞いて話すということがスムーズにできるようなった。

実践事例報告

学校法人長沼スクール　東京日本語学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
B2	就職	話す（やりとり） 話す（発表）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	3 人
コース名・受講者属性：	就職準備-夏(B2/漢字・非漢字圏混在/就職)

2. 授業概要

ビジネスや就職のための日本語の授業。	
言語活動と目標	
話す（やりとり）	面接で聞かれる質問について準備し適切に答えることができる
書く	日本の就職活動に使用される履歴書について、フォーマットを理解し書く内容や作成上の注意点を理解し正しく書ける
日本事情･日本理解	日本の面接のマナーを理解し実践できる

使用教材	**購入教材「就活必勝ガイド内定を勝ち取る 10 のステップ、伸ばす！就活能力・ビジネス日本語力」、学校教材**
使用教具	**プレゼンソフト、WEB アプリ（Googleclassroom、ドキュメントソフト（Google ドキュメント）、表計算ソフト（Google スプレッドシート）**

授業風景

3. 担当講師

職位：副主任相当	年代：60 歳以上	指導歴：10 年以上 20 年未満
オンライン指導経験：　2 年～3 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。出欠。発言。行動。
書く	提出物。
日本事情･日本理解	行動。

日本語力の伸び

４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）。書く。

学習効果	学習者の日本に対する理解が深まった。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者が学習目標を見つけた。
授業への工夫	双方向でのタイムラグを意識した。 学習者の発話機会を増やすようにした。 事前課題を出し，授業で活用した。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。

5. 教員考察	授業内トラブルや今後の課題 特になし
	対応　　特になし
オンライン教授	4 段階評価：　1 分からない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

２名の学習者が「話す（やりとり)」、「話す（発表)」「聞く」が向上したと回答している。事前事後テストはどちらの学習者も事前事後とも９０点以上取っている。

学習者は、日本語（特に敬語）は心配、就活は不安だが、オンライン授業のおかげで、自分の居場所で役に立つ内容の勉強ができた、電子教材が便利だと振り返っている。

②教師

B2 レベルの学習者にビジネスや就職のための日本語を指導し，日本語力の伸びをやや感じたと回答している。

事後面談の結果、学習者が多くのことを学んだと感じていること、模擬面接でうまくできないと感じた学習者がいたことなどから、来日後の日本語学習の動機づけに効果があったと考えている。

日本の企業文化や習慣を理解し、ふさわしい表現を使って話すことができるようになった。

このような内容をオンラインで指導する場合、学習者とのコミュニケーション量を確保するために、6～8 名程度までがいいのではないかと回答している。

③指導

事前課題でビジネスでの様々な場面やトピックを取り上げ、あなたらどうするか，何を伝えるべきか考えさせ、話す練習をした。

オンライン（双方向）授業後、うまく話せた・話せなかったと思う点、新しく学んだこと、次回頑張ろうと思うことを考えさせた。

就職の面接で問われることの多いトピックを話す練習の際は、まず用意した内容をクラスメートに発表する段階を踏んで面接でのやり取りを練習した。

考察

自信を持って来日できるように、学習者が言いたいことをきちんと伝えられるか実感させ，モチベーションを維持させつつ、オンライン授業でコミュニケーション力の向上を図った事例である。

自律的な学習で来日前に弱点の補強をし、生活・学習に対する不安の軽減をさせた。

「話す（発表）」は目標としていないが、学習者も「話す（発表）」の伸びを感じていることから、「話す（発表）」と「話す（やりとり）」の言語活動が組み合わされて成果につながっていると考えられる。

実践事例報告

専門学校アジア・アフリカ語学院

レベル	目的	言語活動	授業手法
B2	就職	話す（やりとり）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	プライベート・8 時間(S-1 パック)
受講者数：	2 人
コース名・受講者属性：	ビジネス日本語（B2/就職）

2. 授業概要

ビジネスや就職のための日本語の授業。
会話力を高める授業。
読解力を高める授業。
聴解力を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	雑談など、仕事の用件以外のやり取りが自然にできる。 「そういえば、」「もしよろしければ、」など、前置きの言葉が自然に使える。 雑談の話題を提供し、会話を続けていくことができる。
聞く	相手の話を聞いて、その目的、意図を的確に理解できる。 あやふやな場合、確認することができる。
読む	文章を読んだ後、自分自身のことに引きつけて自分の意見を述べることができる。
書く	目的、相手に合ったビジネスメールを書くことができる。
日本事情･日本理解	ビジネスの場面で、交渉以外の雑談、コミュニケーションがよりスムーズにできるようになる。

使用教材	**自作教材、動画サイト、購入教材「日本語を学ぶ人のための「上級読解」入門」**
使用教具	**特になし**

授業風景

3. 担当講師

職位：教務主任相当	年代：60 歳以上	指導歴：20 年以上
オンライン指導経験： 2 年～3 年		

（経験手法）	オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。
聞く	授業中の態度。発言。
読む	発言。授業中の態度。
日本事情･日本理解	授業中の態度。行動。発言。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、日本事情・日本理解
学習効果	学習者の日本語学習への意欲が増した。
授業への工夫	事前課題を出し，授業で活用した。 学習者に授業内容を選ばせた。

5. 教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 特になし
	対応　　特になし
オンライン教授	4 段階評価：　1 分からない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者は、日本語力が「向上した」、「やや向上した」と回答している。

二人とも「話す（やりとり）」と「話す（発表）」が伸びたと回答している。

②教師

教師は、授業でのやり取りと面談を通して学習者の日本語力が思ったより伸びたと感じている。たとえば、滑らかに言葉が出てくる、まとまりのある話ができるようになったなどである。

③指導

B2 レベル学習者に「話す（やりとり）」を中心に四技能をバランスよく指導した。

面談から学習者の興味を把握し、授業内容に取り入れた。教材で江戸時代を取り上げた後、落語に興味がある学習者がいたことから落語も取り上げたり、仕事で日本語を使う機会のある学習者もいたことから「雑談をする」ことも目標にして指導した。

考察

「話す（やりとり）」が伸びている事例だが、面談を通して学習者の興味や変化を把握し、効果的に授業内容や指導方法を修正している点が興味深い。学習者が興味を持っている内容を取り込むことでより理解しよう、話そうという意欲を喚起していると言える。落語についてはあらすじを指導したうえで動画を視聴した。必要に応じて動画を止めて解説も加えた。また、教師は落語のような日本文化を紹介したことで、日本人と雑談する

際の中身を提供することもできたのではないかと分析している。

実践事例報告

学校法人京都情報学園 京都コンピュータ学院鴨川校 京都日本語研修センター

レベル	目的	言語活動	授業手法
B2	進学	話す（やりとり） 話す（発表）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	15 人以上
コース名・受講者属性：	キャリア日本語講座（B2/漢字圏/進学）

2. 授業概要

日本留学準備のための授業。
ビジネスや就職のための日本語の授業。
日本留学又は日本への興味関心を高める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	面接の質問項目に対して、自分なりに答えることができる。
聞く	他の学生の面接の応答を聞いて、話している内容を理解できる。
書く	履歴書の各項目を、書き言葉に留意しながら、十分に書くことができる。

使用教材：学校教材、自作教材

使用教具：プレゼンソフト、LMS

授業風景

3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：20～29 歳	指導歴：3 年以上 5 年未満

オンライン指導経験： 2 年～3 年

（経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。会話テスト。
聞く	授業中の態度。
書く	提出物。

日本語力の伸び

4 段階評価： 3 やや感じた

4 段階評価： 4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった

伸びを感じる言語活動： 話す（発表）、話す（やり取り）

学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の日本への興味関心が高まった。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 双方向でのタイムラグを意識した。対面より話す速度を遅くした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。事前課題を出し，授業で活用した。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。

5. 教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 授業の雰囲気づくり。
	対応　　カメラなしでの対応
オンライン教授	4 段階評価：　2 変わらない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。 学習意欲の喚起や保持のために役立つ工夫やアイディアが得られたこと。 教師の言語行動，非言語行動の重要性や適切さについて，新たに認識できたこと。

まとめと考察：

①学習者

B2 レベルの学習者 20 名で中国人であった。

②教師

教師は、「話す（やりとり）」と「書く」が伸びたと感じている。

③指導

PowerPoint や履歴書、面接練習用ビデオなどを活用して進学・就職面接対策を指導した。

面接試験に向けて、受け答えはもちろん、自分のことを性格などをクラス内で発表する活動も取り入れた。

考察

到達目標に「話す（発表）」は掲げられていないが、面接での受け答えを指導するにあたり、「名前と由来」「趣味と特技」「性格と長所」「将来したい仕事」についてクラス内で一人一人発表する活動も取り入れており、それを踏まえて、面接する練習を行った。面接で述べる内容について、クラスメートの発表と自分の内容を対比して振り返ることもでき、発表とやりとりがうまく組み合わされた指導となっている。

教師は中国人は Zoom で顔を出すのを嫌がる学習者が多いと感じていて、面接の指導ということもあって、顔を出してもらうのに苦労したとのことだった。

実践事例報告

学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
C	進学	話す（やりとり） 聞く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

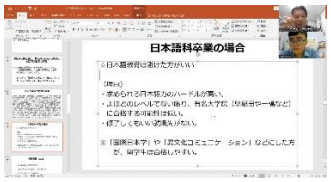
授業形態：	プライベート・8 時間(S-1 パック)
受講者数：	1 人
コース名・受講者属性：	研究計画書・志望理由書・面接指導講座（C/漢字/進学）

2. 授業概要

言語活動と目標	入学試験対策（面接・小論文等）、大学院の研究計画対策
話す（やりとり）	自分の研究計画が説明できる。志望理由が説明できる。
聞く	日本での大学・大学院受験に係る講師の指導内容を聞き取り理解できる。
日本事情･日本理解	日本での大学・大学院受験について理解し研究計画や志望理由を作成できる。

使用教材	自作教材、WEB 情報
使用教具	プレゼンソフト

授業風景



3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：50～59 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満
オンライン指導経験： 2 年～3 年 （経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	講師の指示を受け最終的に修正した自分の研究計画や志望理由を説明する。
聞く	講師の指示通り研究計画や志望理由を修正する。
日本事情･日本理解	日本の受験を理解した上で研究計画や志望理由を修正する。

日本語力の伸び	４段階評価： 3 やや感じた 4 段階評価： 4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動： 話す（やり取り）、聞く
学習効果	専門日本語への橋渡しができた。

	入学試験の対策ができた。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 対面より話す速度を遅くした。学習者に授業内容を選ばせた。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。
	対応　　再起動、再入室により回復
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者は「名詞修飾節内の助詞の誤用」という研究テーマを導き出すことができた。

学習者は事後テストの結果、日本語の成績が伸びた。

学習者は事後アンケートで、留学の動機が「高まった」と回答している。

②教師

教師は学習者は日本語力が「やや向上した」と感じている。

③指導

マンツーマンで C1 レベルの学習者に研究計画を考える授業を行った。

教師が学習者に研究したい内容を尋ね、それについて学習者が答えるという方法で授業を進めた。

適宜、教師は日本の受験事情も説明し、学習者に研究計画の修正を促した。

考察

オンラインの場合データの提供がスムーズにできることを示した事例である。教師は、学習者に授業中に使った Zoom のホワイトボードのデータや論文の資料などを参考資料として送付している。それによって、学習者が研究テーマの検討に注力でき、研究計画書の作成が進んだと言える。

実践事例報告

学校法人長沼スクール　東京日本語学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
A2	一般	話す（発表） 話す（やりとり）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	8 人
コース名・受講者属性：	初級会話-秋(A2/漢字・非漢字圏混在/一般)

2. 授業概要

生活日本語力を高める授業。会話力を高める授業。
日本留学又は日本への興味関心を高める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	自分のこと、家族のこと、趣味について質問したり、答えたりできる。 自分の国の気候、観光地について質問したり答えたりできる。
話す（発表）	自分のこと、家族のこと、趣味について発表できる。 自分の国の気候、観光地について発表できる。
聞く	教師の説明やクラスメートの発表を聞いて、コメントをしたり、応えたり、質問したりできる。

使用教材　**自作教材、動画サイト**

使用教具　**WEB アプリ（GoogleFome、Google スライド、表計算ソフト（Google スプレッドシート）、ドキュメントソフト（Google ドキュメント）、Google クラスルーム）**

授業風景

3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：50～59 歳	指導歴：20 年以上

オンライン指導経験：　2 年～3 年
（経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、ハイフレックス授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。出欠。発言。行動。
話す（発表）	授業中の態度。出欠。発言。行動。
聞く	授業中の態度。発言。行動。

日本語力の伸び	４段階評価：　4 とても感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（発表）、話す（やり取り）、聞く
学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者が学習目標を見つけた。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者オンライン関係の日本語に慣れた。 学習者の会話力が伸びた。 学習者の語彙力や表現力が増した。
授業への工夫	双方向でのタイムラグを意識した。 学習者の発話機会を増やすようにした。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。 事前課題を出し，授業で活用した。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。

5. 教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。授業前の準備の時間・作業量。
	対応　　再起動、再入室により回復
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	事前課題とその効果的な活用方法について理解を深めることができたこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者は、事後テストの結果、成績が伸びた者と変わらない者とがいた。

学習者は、事後アンケートで日本語力が「やや向上した」と回答している。

また、日本留学の動機が「高まった」と回答している。

②教師

教師は自作のクイズも用いながら学習者の変化を把握し、会話力が伸びた、学習者自身が弱点に気づいているといった感触を持っている。

③指導

Google の様々なアプリを活用して授業を進めた。

身近な話題をテーマに自分や自分の国のことが話せるように指導し、コースの最後に「私の国」という発表を行った。

事前事後テストの差は見られなかったが，教師，学習者ともに伸びを感じている。

パソコンやアプリの活用法のリソースは教師だけではないことを示す事例である。パソコンの扱いに慣れている学習者が Zoom や ClassRoom、ソフトの使い方に関してわからず困っているクラスメートには積極的にサポ

ートした。対面であれば、教師の指示がわからず戸惑っている学習者をそばの学習者が支援する姿はしばしばみられることだが，オンラインでも学習者同士がソフトやツールの使い方を支え合う関係になれる可能性を示唆している。

実践事例報告

学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
B1	進学	話す（発表） 話す（やりとり）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	1 人
コース名・受講者属性：	モデル事業・専門学校の日本語（B1/漢字/進学）

2. 授業概要

専門日本語への橋渡しの授業。	
言語活動と目標	
話す（やりとり）	日本の生活やマンガの授業について質問し、答えを理解することができる。
話す（発表）	自分の好きなマンガや、描きたいマンガのストーリーを説明することができる。
聞く	マンガ科の教師や卒業生の話を聞き、授業内容を理解できる。
読む	マンガに出てくるオノマトペを読み、どんな意味かを推測できる。
書く	描きたいマンガのキャラクター表を書くことができる。
日本事情･日本理解	マンガを描く手順を理解することができる。

使用教材	**自作教材**
使用教具	**プレゼンソフト**

授業風景

3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：30～39 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満
オンライン指導経験： 2 年～3 年 （経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業		

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。行動。
話す（発表）	授業中の態度。発言。行動。
聞く	授業中の態度。発言。行動。
読む	授業中の態度。発言。行動。
書く	授業中の態度。提出物。

日本事情･日本理解	授業中の態度。クイズ。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解。
学習効果	専門日本語への橋渡しができた。 学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の日本に対する理解が深まった。 学習者の日本への興味関心が高まった。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 日本人ゲストを招いて生の日本語を体験させた。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。

5. 教員考察	授業内トラブルや今後の課題 特になし
	対応　　カメラなしでの対応
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者はマンガのストーリーを完成することができ、専門の教師からも高い評価を得た。

学習者に述べたいと思っていることをうまく引き出すことができれば、質の高い内容の文章を学習者は作り出すことができることを示す事例である。

②教師は、専門の教師と連携して授業用動画を作成し、授業で用いた。

専門はマンガで、マンガのストーリーを説明する授業であった。

教師は、このレベルの学習者にオンラインで専門教育への橋渡しの授業が十分実施できるという手ごたえをつかんだ。

③指導

B1 レベルの学習者に「話す（発表）」「話す（やりとり）」を中心にマンツーマンで専門教育の橋渡し教育を実施した。

考察

専門教育をトピックとして盛り込むことで、学習者の学習意欲を高め、難易度の高いことへも学習者が挑戦しようと努力をし、高い成果に結びついた事例である。漫画のストーリーの発表は内容も表現も充実したものとなった。日本語の教師だけ

でなく、漫画を学んでいる留学生や、漫画の専門教師によるビジターセッションも行われたが、オンラインだから手軽にオンラインでつながることができるというメリットを生かした事例でもある。

実践事例報告

学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	一般	読む 書く	ハイブリッド授業

1. コース情報

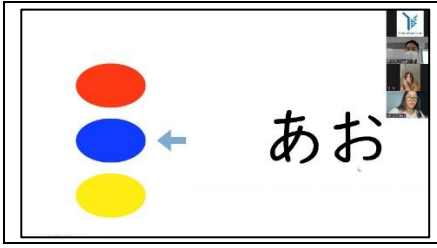
授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	5 人
コース名・受講者属性：	日本語表記講座（A1/非漢字/一般）

2. 授業概要

	平仮名・カタカナを習得する授業。	
言語活動と目標	読む	ひらがなとカタカナを読むことができる
	書く	ひらがなとカタカナを書くことができる

使用教材	**自作教材、レアリア**
使用教具	**プレゼンソフト、プロジェクター、ミニホワイトボード、ドキュメントソフト(ノート)**

授業風景



3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：30～39 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満
オンライン指導経験： 2 年～3 年 （経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業		

4. 評価と方法

読む	発言。行動。クイズ。
書く	クイズ。行動。

日本語力の伸び	４段階評価： 4 とても感じた 4 段階評価： 4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動： 話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解
学習効果	平仮名・カタカナを習得できた。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。

	双方向でのタイムラグを意識した。 対面より話す速度を遅くした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 その他。
	対応　　学生への指示により改善
オンライン教授	4 段階評価：　2 変わらない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	オンライン授業でも、フラッシュカードやノートなど、アナログ教材が役立つと気づいたこと

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、75%の学習者の成績が伸びている。

事後アンケートに回答した学習者は全員日本留学の動機が高まっている。

事後アンケートに回答した学習者の 75%が「書く力」が伸びたと回答している。

②教師

フラッシュカードやノートなど、対面で用いる教具をオンラインでも活用できるという気付きがあった。

ハイブリッドの場合、対面とオンラインで時差があるので、発話のタイミングを待つ必要があるという気付きがあった。

③指導

A1 レベルの学習者にハイブリッドでひらがな・カタカナの指導をした。

中間面談を利用して、学習者にそれまでの達成度など教師の印象を伝えていた。

考察

ひらがなとカタカナの読み書きの習得が進んだ事例である。

教師は対面授業で活用していたフラッシュカードやノートなどをオンラインに取り込んで文字の指導を行った。

オンライン用に何か作成することなくスムーズに教材を流用し、効果を上げている。

実践事例報告

学校法人滋慶学園　東洋言語学院

レベル	目的	言語活動	授業手法
A2	進学	読む 書く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	4 人
コース名・受講者属性：	JLPT 対策講座（A2/進学/N4 読み・書き）

2. 授業概要

	読解力を高める授業。日本留学又は日本への興味関心を高める授業。日本語の学習意欲を高める授業。	
言語活動と目標	読む	ネットなどの文章以外のものから情報を抜き取ることができる
	書く	自分の意見を書くことができる

使用教材	**オンライン教材「まるごと日本語オンライン」、自作教材、動画サイト、WEB 情報**
使用教具	**コミュニケーションツール（Teams）、ドキュメントソフト（Word）、WEB アプリ（検索エンジン）**

授業風景

3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：30～39 歳	指導歴：１年以上 3 年未満
オンライン指導経験：　１年～2 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業		

4. 評価と方法

読む	行動。発言。
書く	提出物。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　書く
学習効果	学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本語学習への意欲が増した。

授業への工夫	ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 特になし
	対応　　コース内容の修正
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	教師の言語行動，非言語行動の重要性や適切さについて，新たに認識できたこと。 学習者への新たな働きかけを学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、全員成績が向上していた。

事後アンケートで日本語力が「向上した」あるいは「やや向上した」と回答している。

②教師

文章の読むスピードが速くなった、読める漢字が増えた、以前学習して忘れていたことを思い出したというように、授業観察、面談を通して学習者の日本語力の向上を感じている。

③指導

オンラインコース教材で，読解（短い文章），作文（短い文章）を自学自習に教師の指導という形態で実施した。

考察

他の様々なリソースも活用し，指導者と言うより，アドバイザー的な存在でオンライン指導を実施した事例である。

実践事例報告

学校法人石川学園横浜デザイン学院日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
A2	一般	読む 書く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	2 人
コース名・受講者属性：	初級日本語（A2/漢字/一般）

2. 授業概要

平仮名・カタカナを習得する授業。
漢字の力を高める授業。
生活日本語力を高める授業。
会話力を高める授業。聴解力を高める授業。
日本留学又は日本への興味関心を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	自分のことについて紹介できる、 日常生活においてわからないことを質問することができる。
聞く	日常生活における道順や相手の経験についての説明を理解することができる。
読む	生活に必要な漢字を読むことができる。メールやお知らせを理解することができる。
書く	身近な事柄を漢字かな交じりで書くことができる。
日本事情･日本理解	日本の食生活や年中行事について理解することができる。

使用教材	オンライン教材「いろどり」、自作教材、レアリア
使用教具	プレゼンソフト、WEB アプリ（検索エンジン）、ミニホワイトボード

授業風景

3. 担当講師

職位：非常勤講師	年代：50～59 歳	指導歴：20 年以上

オンライン指導経験： 2 年～3 年
（経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業

4.評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。行動。会話テスト。
聞く	授業中の態度。発言。行動。会話テスト。
読む	授業中の態度。発言。行動。
書く	授業中の態度。発言。行動。提出物。
日本事情･日本理解	授業中の態度。発言。行動。会話テスト。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、読む、書く、日本事情・日本理解
学習効果	漢字の力を高められた。 学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者オンライン関係の日本語に慣れた。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の会話力が伸びた。 学習者の聴解力が伸びた。 学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 対面より話す速度を遅くした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。 教師のディスプレイに全員の顔が出るようにし，学習者の表情に注意した。

5.教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 特になし
	対応　　特になし
オンライン教授	4 段階評価：　2 変わらない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	特にない。

まとめと考察：

①学習者

学習者は、事後アンケートで日本語力が「向上した」、あるいは「やや向上した」と回答している。

学習者は事後アンケートで留学動機が「高まった」と回答している。

②教師

検索エンジンやレアリア、ミニホワイトボードなど、デジタル教材とそうでないものを適切に併用した。

③指導

学習者のレベルと目標に適した設計であった。

漢字の読み方だけでなく、漢字の書き方や「話す（やりとり）」の指導も行っている。

しかし，Zoom のホワイトボード機能を使おうとしたが、学習者に使い方をわかってもらえず、チャットで代用した。

考察

何かの事情でツールの機能が使えない場合を想定し、その代替え機能を用意した事例である。例えば、ディクテーションができるか確認する方法として、Zoom のホワイトボードを活用する、チャットに平仮名を入力する、手書きで書いたものをカメラに示すなどいくつかあるが、これらを状況に応じて選択することも教師には求められる。

実践事例報告

学校法人文化学園　文化外国語専門学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
B1	進学	読む 聞く	オンデマンド学習

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-eL パック)
受講者数：	6 人
コース名・受講者属性：	L-EL(Level3: B1/進学)

2. 授業概要

会話力を高める授業。
読解力を高める授業。
聴解力を高める授業。
作文力を高める授業　。

言語活動と目標

話す（やりとり）	日常生活、旅行などの場面で自分の状況説明や質問、依頼、意見などを述べることができ、ゆっくりと話された質問であれば、質問に答えることができる。
聞く	日常生活、旅行などの場面で、ゆっくりと話された内容であれば、説明や指示、質問などを理解することができる。
読む	日常生活、旅行、自分が関心のある話題について書かれたある程度まとまった内容の文章を読んで、出来事や登場人物の気持ちを理解することができる。
書く	日常生活、旅行などでの出来事を感想を添えて書くことができる。 関心のある話題について、意見を述べることができる。

使用教材	**オンライン教材 VLJ**
使用教具	**特になし**

授業風景

3. 担当講師

職位：副校長相当	年代：50～59 歳	指導歴：20 年以上

オンライン指導経験：　2 年～3 年
（経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	筆記試験。
聞く	筆記試験。
読む	筆記試験。

書く	筆記試験。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、読む、日本事情・日本理解
学習効果	学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の読解力が伸びた。 学習者の聴解力が伸びた。 日本語の文法力が伸びた
授業への工夫	学習者に授業内容を選ばせた。 オンライン授業で使うツールの機能などを学習者に十分理解させるようにした。 事前面談で VLJ と付属のアプリの使い方について説明し、事前テストの結果から学習すべきレベルを指示した。 中間面談で学習ログを参考に後半の学習計画や学習方法について助言した。

5. 教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。その他。
	対応　　学習時間の確保
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。　なし

まとめと考察：

①学習者

6 名のうち、事後テストで成績が伸びたのは 2 名だった。

学習者は事後アンケートで日本語力が「向上した」か「やや向上した」と回答している。

事後面談によると、日本語力が向上しなかった学習者は学習時間を定期的に確保できてていなかった。

②教師

教師は、オンデマンドの場合は、学習者の学習意欲が喚起維持できるかによって学習の進捗に影響すると感じている。

③指導

VLJ と中国の相性の問題か、事後テストがうまく提出できず 4 回実施し、集中力が続かなかったという事例があった。ネット環境は学習意欲に影響を及ぼすことが分かった。

考察

オンデマンド教材は、継続できれば成果につながるが、継続できないと成果につながらないことが多い。教師が中間面談で助言をしても限界がある。学習意欲を維持することの難しさを示す事例である。

事後アンケートで「読む」「聞く」両方が伸びたと感じている学習者は、事後テストの結果で 20 点以上点数を伸ばしていたことに着目し、VLJ で読む力と聞く力をより伸ばすための助言などについて今後検討したいという教師の振り返りは興味深い。

実践事例報告

学校法人京都情報学園 京都コンピュータ学院鴨川校 京都日本語研修センター

レベル	目的	言語活動	授業手法
B2	進学	読む	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	15 人以上
コース名・受講者属性：	文法ポイント復習講座（B2/漢字圏/進学）

2. 授業概要

日本に対する理解を深める授業。
助詞の使い方、人称代名詞の使い方や紹介。

言語活動と目標

話す（やりとり）	助詞「は」「が」「を」「に」「と」を適切に使用できる
聞く	助詞「は」「が」「を」「に」「と」を適切に使用できる
読む	助詞「は」「が」「を」「に」「と」を適切に使用できる
日本事情･日本理解	日本語の人称代名詞の使い方や特徴を理解できる

使用教材	自作教材、WEB アプリ、学校教材
使用教具	プレゼンソフト、LMS、WEB アプリ (Mentimeter)

授業風景

3. 担当講師

職位：副校長相当	年代：40～49 歳	指導歴：20 年以上

オンライン指導経験： 2 年～3 年
（経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	クイズ。発言。
聞く	発言。クイズ。
読む	発言。クイズ。
日本事情･日本理解	発言。クイズ。

日本語力の伸び

4 段階評価： 3 やや感じた
4 段階評価： 4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった

伸びを感じる言語活動： 聞く、話す（発表）、日本事情・日本理解、話す（やり取り）

学習効果

学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。

	学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 文法の理解（使用方法やイメージ）が深まった
授業への工夫	対面より話す速度を遅くした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 オンライン授業で使うツールの機能などを学習者に十分理解させるようにした。 オンデマンド学習の際に、動画とクイズを交互に組み合わせることで内容理解の向上を図った。 PPT はアニメーションを多用し、興味を引かせ、重要なポイントを強調させた。 学内の LMS を使用して、確認テストや受講の感想についてのアンケートを実施した。 Mentimeter を使用し、ゲーム形式のクイズを実施し、学習者の興味と集中力を維持した。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 授業前の準備の時間・作業量。 事前課題の作成の時間・作業量
	対応　　カメラなしでの対応
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	学習意欲の喚起や保持のために役立つ工夫やアイディアが得られたこと。 ICT 機器の効果的な活用について理解できたこと。 対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、日本語の成績は 22 人中 16 名が伸び た。

学習者は，事後アンケートで 17 名が 「オンライン学習への学習意欲が高まった」と回答し ている 。

学習者はアニメーションを使った説明が分かりやすかった「Mentimeter 」のクイズはよかった，という評価をしている。

②教師

教師は，オンライン授業での Web カメラがない学習者，回線速度，学習者のビデオ ON・OFF などの課題に取り組み、学習意欲の喚起や保持に役立つ工夫やアイディア、ICT 機器の効果的な活用の理解、対面授業とは異なる指導技術での学びがあった。

③指導

授業は反転授業の要素が取り入れられ動画教材を見てから Zoom でクイズやアニメーションを用いた自作の PowerPoint 教材で解説を行っている。また「Mentemeter」を使ってゲーム的要素を盛り込んでいる 。

学習内容は助詞「は」「が」「を」「に」「と」を適切に使用できること人称代名詞を適切に使用できることを目標としている 。

考察

動画を使った反転授業を取り入れている点、アプリを使ってゲーム的要素を取り入れている点から、オンライン授業の特長を生かした指導法の事例と言える。

実践事例報告

学校法人滋慶学園　東洋言語学院

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	進学	書く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	5 人
コース名・受講者属性：	JLPT 対策講座（A1/進学/N5 読み・書き）

2. 授業概要

	日本語試験対策（EJU・JLPT 等)。作文力を高める授業　。	
言語活動と目標	読む	日常的な情報を獲得できる。
	書く	自分の周りに起きた出来事を簡単な日本語で書くことができる

使用教材	オンライン教材「まるごと日本語オンライン、エリンが挑戦」、動画サイト
使用教具	ドキュメントソフト（Word)、WEB アプリ（検索エンジン)、ホワイトボード、コミュニケーションツール（teams)

授業風景

3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：30～39 歳	指導歴：3 年以上 5 年未満
オンライン指導経験：　2 年～3 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向)、ハイブリッド授業、オンデマンド授業		

4. 評価と方法

読む	特に評価基準は設けない。
書く	提出物。発言。授業中の態度。

日本語力の伸び

４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
伸びを感じる言語活動：　聞く

学習効果

学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。
学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。
学習者が日本人の日本語に慣れた。
学習者の日本語学習への意欲が増した。
学習者の日本への興味関心が高まった。

授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。 ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 授業の雰囲気づくり。
	対応　　学生の発話機会を多くした
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	学習意欲の喚起や保持のために役立つ工夫やアイディアが得られたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、日本語の成績が伸びた学習者と、そうでない学習者がいた。

事後アンケートで、半数の学習者が日本語力が「伸びた」と回答している。

②教師

教師は学習者を日々観察し、授業開始前に比べて作文が書けるようになった学習者が多いと感じている。

学習者の既存知識を最大限に活かすこと、オンラインの特性を活かすことを考えて授業を行った。

身近な話題について、相手の手助けのもと、簡単なやり取りをすることができることを目指した。

③指導

未入国の学習者と在校生とのクラス編成であることを生かし、お互いが知り合う活動を授業に盛り込んだ。

8 種類のトピックを取り上げて動画も利用しながら作文を指導した。

考察

JLPT N5 相当の学習者に対して、アクション・リサーチの視点から教師と学習者の協働的活動ととらえたオンライン授業の事例である。

学習者の関心事の SNS のコミュニケーションを題材に、日本語学習のモチベーションを落とすことなく、入国前に日本語知識と進学に向けた学習基盤を築くことを行った。

学習者同士の立場の違いを利用してクラス活動を考案した。

動画を使って話題を共有し、それについて学習者同士で話し、文法のポイントを教師が説明したうえで書くというように目標に向かって段階的に授業を進めた。

踏むべき手順を踏んで授業を進めることは重要である。手順を踏んで授業を進めることは重要である。

実践事例報告

学校法人滋慶学園　東洋言語学院

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	進学	書く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

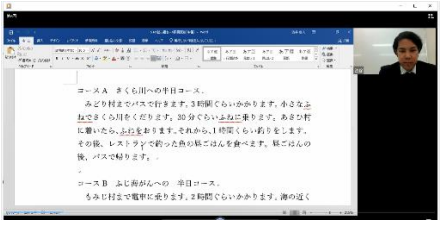
授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	3 人
コース名・受講者属性：	JLPT 対策講座（A1/進学/N5 読み・書き）

2. 授業概要

	日本留学準備のための授業。日本語の学習意欲を高める授業。	
言語活動と目標	読む	簡単な非連続型資料から情報を読み取ることができる
	書く	定型の様式などに短い言葉を書くことができる

使用教材	**オンライン教材「まるごと日本語オンライン、エリンが挑戦」、動画サイト**
使用教具	**ドキュメントソフト（Word）、WEB アプリ（検索エンジン）、コミュニケーションツール（Teams）、ホワイトボード**

授業風景



3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：30～39 歳	指導歴：１年以上 3 年未満
オンライン指導経験：　2 年～3 年 （経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業		

4. 評価と方法

読む	行動。提出物。
書く	提出物。行動。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　聞く
学習効果	学習者オンライン関係の日本語に慣れた。 学習者の聴解力が伸びた。 学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。

授業への工夫	学習者から質問が出るように心掛けた。 オンライン授業で使うツールの機能などを学習者に十分理解させるようにした。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 学習意欲の低下への対応。
	対応　　連絡方法の改善
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	文化庁の参照枠への理解が進みました

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、日本語の成績が伸びた者とそうでない者がいた。

知っている先生がいてリラックスできた，クラスメートが最初から友達だったので、TEAMS の使い方を教えたという学習者がいた。

②教師

学習者の 3 分の 2 が書く力が伸びていると感じている。

事後アンケートで文化庁の参照枠への理解が進んだと回答している。

③指導

A1 レベルの学習者に「書く」と「読む」を指導した。

書いたものを写真に撮って Teams に提出させた。

手書きの作文は写真にとって提出する方法で課題を回収し指導した。

パソコン入力での作文はチャットで提出する方法で指導した。

考察

A1 レベルの学習者に「書く」の指導をオンラインで行ったのだが，指導の目標によって提出方法を臨機応変に変えて、指導の幅を広げた事例である。

実践事例報告

学校法人京都情報学園 京都コンピュータ学院鴨川校 京都日本語研修センター

レベル	目的	言語活動	授業手法
A2	進学	書く 読む	ハイフレックス授業

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	7 人
コース名・受講者属性：	初級漢字講座（A2/非漢字圏/進学）

2. 授業概要

	漢字の力を高める授業。	
言語活動と目標	読む	漢字を読むことができる
	書く	学習した漢字を書くとができる
	その他	理解語彙を増やすことができる

使用教材	購入教材「どんどんつながる漢字練習帳（初級)」、自作教材
使用教具	WEB アプリ（Google Classroom、Google Forms)、プレゼンソフト

授業風景

3. 担当講師

職位：副校長相当	年代：40～49 歳	指導歴：20 年以上
オンライン指導経験： 2 年～3 年 （経験手法） オンライン授業（双方向)、ハイブリッド授業、オンデマンド授業		

4. 評価と方法

読む	提出物。クイズ。筆記試験。
書く	提出物。クイズ。筆記試験。
その他	特に評価基準は設けない。

日本語力の伸び	４段階評価： 3 やや感じた 4 段階評価： 4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動： 書く、読む
学習効果	漢字の力を高められた。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者がアプリケーションの使い方に慣れた。

	学習者オンライン関係の日本語に慣れた。学習者が日本人の日本語に慣れた。
授業への工夫	対面より話す速度を遅くした。 事前課題を出し，授業で活用した。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 オンライン授業で使うツールの機能などを学習者に十分理解させるようにした。 学習者に授業中は必ずビデオをオンにさせた。 課題を提出しない学生には、授業後に課題を行って提出するまでの時間を作った。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 授業前の準備の時間・作業量。 事前課題へのフィードバックの方法。 学習意欲の低下への対応。 オンデマンド授業の教材の作成・編集等。 対応　　事前準備が双方に必要
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。 事前課題とその効果的な活用方法について理解を深めることができたこと。 ICT 機器の効果的な活用について理解できたこと。 印刷教材と電子教材の使い分け・使いこなしが理解できたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、約 85%の学習者の成績が伸びている。

事後アンケートで、学習者は日本語力について「向上した」、あるいは「やや向上した」と回答している。

②教師

「書く」と「読む」が伸びたと感じている。

当初、反転学習で漢字の動画は事前に学習してくる予定だったが、それをしてこない学生がいて、双方向の授業の後に動画を見てもらうなどの対応を行った。

③指導

A2 レベルの学習者に漢字の指導を行った。

オンデマンドの動画教材を用いて指導した。

独自に事前事後の漢字力テストを実施したが、テストの成績が伸びた者とそうでない者がいた。PDF を学習者に送付して印刷して解答してもらい、それを送り返す方法をとった。

考察

様々な手法を組み合わせて漢字の書く力と読む力を伸ばした事例である。オンデマンドの動画の自習と双方向のオンライン授業を組み合わせている。学習者の理解度や学習動機を双方向の授業で確認しながらコースを運営している。Google Forms によるオンデマンド上のクイズと手書きのテストを組み合わせて、書く力と読む力を確認している。

実践事例報告

学校法人上野法律学園　上野法科ビジネス専門学校日本語学科

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	一般	その他（日本事情・日本理解） 聞く	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	4 人
コース名・受講者属性：	日常生活コース（A1/漢字圏/一般）

2. 授業概要

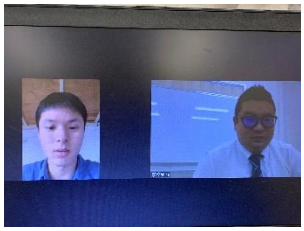
生活日本語力を高める授業。
日本留学又は日本への興味関心を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。

言語活動と目標

聞く	生活の中で必要な基本的な語彙を、聞いて理解できる
日本事情･日本理解	生活に必要な知識を習得し、留学生活を円滑に開始することができる 生活の中で必要な基本的な語彙を、聞いて理解できる 日本への関心を強め、学習動機を維持管理できる

使用教材	**自作教材**
使用教具	**表計算ソフト（Excel）、ドキュメントソフト（Word,PDF）、プレゼンソフト**

授業風景



3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：30～39 歳	指導歴：5 年以上 10 年未満

オンライン指導経験：　1 年～2 年
（経験手法）　オンライン授業（双方向）

4. 評価と方法

聞く	筆記試験。
日本事情･日本理解	提出物。筆記試験。

日本語力の伸び

４段階評価：　3 やや感じた

4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった

	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、聞く、日本事情・日本理解
学習効果	専門日本語への橋渡しができた。 学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 オンデマンド学習の際に，教師の顔が出ている動画を使うことで，臨場感を出した。

5. 教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 授業前の準備の時間・作業量。 ネット回線（学校）の不調・不具合。 教師側のディスプレイのサイズの小ささ。
	対応　　録画配信
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	学習意欲の喚起や保持のために役立つ工夫やアイディアが得られたこと。 教師の言語行動，非言語行動の重要性や適切さについて，新たに認識できたこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者は、事後テストの結果、成績が伸びた者もいればそうでない者もいた。学習者は、日本語力が「向上した」あるいは「やや向上した」と感じている。

②教師

教師は、「日本事情・日本理解」のほかに、「話す（やり取り）」「話す（発表）」「聞く」が伸びたと感じている。

③指導

Ａ１レベルの学習者に「日本事情・日本理解を深めること」「生活に必要な基本的な表現が聞き取れること」を目指して授業を行った。

必要に応じて、中国語の通訳も介しながら学習者の理解を高めた。

考察

通訳を適切に介すことで、表現だけでなく伝えたい内容自体の理解を深められた事例である。

学習者への聞き取り調査によると、電車の乗り方やごみの捨て方など、取り上げたトピックに興味を感じた学習者が多かったが，これはまだ日本で生活をしていない学習者にとって、日本での生活に関するトピックは学習動機に影響を与えたことを示していると思われる。

実践事例報告

学校法人国際ことば学院　国際ことば学院日本語学校

レベル	目的	言語活動	授業手法
A1	進学	その他（日本事情・日本理解） 話す（やりとり）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・8 時間(L-1 パック)
受講者数：	4 人
コース名・受講者属性：	Intensive　Summer　Course（A1/漢字圏/その他）

2. 授業概要

生活日本語力を高める授業。
会話力を高める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。
日本留学準備のための授業。

言語活動と目標

話す（やりとり）	平易な言葉を用いて日常の生活場面でのやり取りができる。
聞く	平易な言葉を用いて日常の生活場面でのやり取りができる。
読む	平易な内容のふりがなが振られている単文が読める。
日本事情･日本理解	テキストの課の内容に沿った場面（日本の気候、買い物の場面、など）にふさわしい対応ができる。

使用教材	オンライン教材「まるごと初級１」、自作教材
使用教具	WEB アプリ（検索エンジン）

授業風景

3. 担当講師

職位：校長	年代：50～59 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満

オンライン指導経験：　1 年～2 年
（経験手法）　オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業

4. 評価と方法

話す（やりとり）	授業中の態度。発言。行動。
聞く	授業中の態度。発言。行動。

読む	授業中の態度。発言。行動。
日本事情･日本理解	授業中の態度。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（やり取り）、話す（発表）、日本事情・日本理解
学習効果	学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。 学習者の日本語学習への意欲が増した。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。 学習者がアプリケーションの使い方に慣れた。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 対面より話す速度を遅くした。ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 ペアの会話練習時間を多く取るようにした。

5. 教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 事前課題へのフィードバックの方法。 授業前の準備の時間・作業量。
	対応　　特になし
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	対面授業では必要なかった指導技術を学ぶことができたこと。 機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 自律的な学習を促す方法について学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、4 名中 3 名が成績が伸びている。

事後アンケートで全員日本語力が伸びたと回答している。

「話す（やりとり）」が 3 名、「話す（発表）」が 1 名伸びたと回答している。

②教師

日本語の伸びをやや感じたと回答している。

事後アンケートで一人の学習者が事前の申請と学習歴が違っていて指導内容に工夫を要したと回答している。

③指導

ネット環境の不具合はあるものだと覚悟していたので、うまく対応ができた。

シャドーイングを取り入れ、ブレイクアウトルームも活用して会話の機会を増やしていて学習者も会話力の向上を実感している。

考察

テスト、面談で学習者の特徴や留意点や接続環境などを把握して、飽きが来ない工夫をしながらオンライン授業を実施した事例である。

GoogleClassroom を活用したが、活用マニュアルなどがあればさらに一層円滑な運営ができたと振り返っている。

実践事例報告

専門学校アジア・アフリカ語学院

レベル	目的	言語活動	授業手法
A2	一般	その他（日本事情・日本理解）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	プライベート・8 時間(S-1 パック)
受講者数：	3 人
コース名・受講者属性：	生活の日本語(A2/一般)

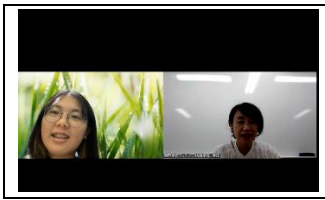
2. 授業概要

日本留学又は日本への興味関心を高める授業。
日本に対する理解を深める授業。
日本語の学習意欲を高める授業。
生活日本語力を高める授業。

言語活動と目標		
	日本事情･日本理解	日本で生活する上で必要な、規則・マナーを理解できる。

使用教材	**自作教材、動画サイト**
使用教具	**プレゼンソフト**

授業風景



3. 担当講師

職位：専任（常勤）講師	年代：50～59 歳	指導歴：10 年以上 20 年未満

オンライン指導経験： 1 年～2 年
（経験手法） オンライン授業（双方向）

4. 評価と方法

日本事情･日本理解	授業中の態度。クイズ。発言。出欠。

日本語力の伸び

４段階評価： 3 やや感じた
4 段階評価： 4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった

伸びを感じる言語活動： 話す（やり取り）、話す（発表）、読む、聞く、日本事情・日本理解

学習効果

学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。
学習者が入国後の日本語学習に自信を持った。
学習者の日本語学習への意欲が増した。
学習者が日本人の日本語に慣れた。
学習者の会話力が伸びた。

	学習者の日本への興味関心が高まった。 学習者の日本に対する理解が深まった。
授業への工夫	カメラに向かって，丁寧に語りかけるようにした。 対面より話す速度を遅くした。 学習者の発話機会を増やすようにした。 学習者から質問が出るように心掛けた。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。 必ず学習者に説明の理解やマイクの感度を確認する配慮をした。

5.教員考察	授業内トラブルや今後の課題 ICT 機器のトラブル。授業の進め方・進度（対面授業との相違）。
	対応　　学生への指示により改善
オンライン教授	4 段階評価：　2 変わらない 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	学習者への新たな働きかけを学ぶことができたこと。

まとめと考察：

①学習者

事後テストの結果、日本語の成績が伸びた者とそうでない学習者が半々だった。

事後アンケートで日本語力が「向上した」、あるいは「やや向上した」と回答している。

事後アンケートで日本への留学動機が全員「高まった」と回答している。

②教師

教師はスライドや YouTube を使って授業を進めた。

教師は学習者から「今までは入国前に日本での生活について話してくれる日本人がいなかったので、今回はいい機会だった。」というコメントを得て、日本で生活する上で必要なこと、伝えたいことを授業の内容に取り入れることは有意義だという気づきがあった。

③指導

日本事情と日本で生活するための会話力向上を目的とした授業を A2 レベルの学習者に実施した。

通信状況のトラブルに対して、通訳者がサポートに入り解消した。

考察

入学前にオンラインで日本事情や日本での生活を取り上げて指導することは海外にいる学習者にとって有意義であることを示している。これから留学する国、町の生活場面を具体的に提示してその場面での会話を指導することで、留学動機が高まるという成果に結びつけている。また、授業をスムーズに進めていくために、オンライン授業の場合は通訳者の活用が有効であることも示唆する事例である。

実践事例報告

学校法人京都情報学園 京都コンピュータ学院鴨川校 京都日本語研修センター

レベル	目的	言語活動	授業手法
B2	進学	その他（専門 ICT）	オンライン授業（双方向）

1. コース情報

授業形態：	グループ・16 時間(L-2 パック)
受講者数：	15 人以上
コース名・受講者属性：	「専門学習」ICT×日本語（B2/漢字圏/進学）

2. 授業概要

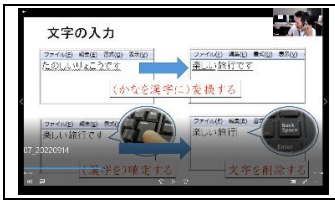
日本留学準備のための授業。
生活日本語力を高める授業。
専門日本語への橋渡しの授業。
作文力を高める授業。
PC での日本語入力、音声での日本語入力、メールの書き方、自動翻訳の効果的な使用方法。

言語活動と目標

話す（発表）	自動翻訳アプリで作成した自己紹介を発表
聞く	日本人講師の ICT の専門的語彙が理解できる
読む	講師からの指示やお知らせを LMS から読んで理解することができる
書く	日本語で e メールを書くことができる
その他	PC での日本語入力ができる（「L」や「X」を使った小さな文字の入力、ファンクションキーを使ったカタカナ、半角カタカナ、英数文字の入力、半角スペースの入力方法など） スマホや Windows11 で音声で日本語入力ができる 自動翻訳アプリを上手に使って母語を自然な日本語に翻訳することができる

使用教材	自作教材、WEB アプリ
使用教具	プレゼンソフト、WEB アプリ「Mentimeter」、LMS、アプリ（DeepL、Google 翻訳他）

授業風景



3. 担当講師

職位：副校長相当	年代：40～49 歳	指導歴：20 年以上
オンライン指導経験： 2 年～3 年 （経験手法） オンライン授業（双方向）、ハイブリッド授業、オンデマンド授業		

4.評価と方法

話す（発表）	発言。提出物。
聞く	行動。提出物。クイズ。
読む	行動。提出物。クイズ。
書く	提出物。筆記試験。
その他	提出物。クイズ。

日本語力の伸び	４段階評価：　3 やや感じた 4 段階評価：　4 とても感じた／3 やや感じた／2 あまり感じなかった／1 感じなかった
	伸びを感じる言語活動：　話す（発表）、聞く、話す（やり取り）、読む、書く
学習効果	専門日本語への橋渡しができた。 学習者が入国前の心配や不安を払拭できた。 学習者が日本人の日本語に慣れた。 学習者の語彙力や表現力が増した。 学習者の聴解力が伸びた。 学習者がアプリケーションの使い方に慣れた。
授業への工夫	ジェスチャーや表情を対面授業より少しオーバーにした。 事前課題を出し，授業で活用した。 画面共有する教材を見やすく・分かりやすくした。

5.教員考察

	授業内トラブルや今後の課題 ネット回線（学習者）の不調・不具合。 授業前の準備の時間・作業量。
	対応　　カメラなしでの対応
オンライン教授	4 段階評価：　3 やや向上した 4 段階評価：　4 非常に向上した／3 やや向上した／2 変わらない／1 分からない
向上したスキル	機器・ソフトの操作の理解を通じて教具についての新たな見識を得たこと。 ICT 機器の効果的な活用について理解できたこと。

まとめと考察：

①学習者

学習者は、28 名であった。

学習者は事後アンケートで、47%が日本語力が「向上した」、50%が「やや向上した」、3%が「変わらない」と回答した。

事後テストの成績の伸びは平均 12 点であった。

②教師

教師は、大規模な PC ルームなどがなくても学習者のデバイスを生かして、スマホ、PC、自動翻訳アプリを活用した授業を工夫した。事後アンケートで、多くの学習者が Mentimeter によるクイズが楽しかったと回答している。

③指導

B2 レベルの学習者に専門教育（ICT）への橋渡し授業を実施した。

考察

非常に多くの学習者に対して指導している点、学習者のデバイスやアプリを有効に活用して指導している点、専門分野への橋渡し教育を行っている点などオンライン授業の可能性の高さを示す事例である。